

■伊藤左千夫 歌人・小説家。子規没後の根岸派を確立し、(アララギ)を支えて、島木赤彦、斎藤茂吉ら若手を育成した。
いとうさちお
禁門の変・・・1864＝ 上総国殿台村で農家の四男に生れる。

明治維新・・・1868＝ 4歳：

明治6年政変 1873＝ 9歳：

農事のかたわら漢学を学び、

明治14年政変1881＝17歳：上京して明治法律学校に入学するも、眼病のため中退。
新体詩抄・・・1882＝18歳：

内閣発足・・・1885＝21歳：1円を懐に再び上京し、

東京や横浜の牛乳屋で働いた後、

帝国憲法発布1889＝25歳：本所茅場町に独立して牛乳搾取業を営む。

足尾鉍毒始・・・1891＝27歳：この頃、同僚から茶の湯、和歌を学び、

日清戦争始・・・1894＝30歳：

日清戦争終・・・1895＝31歳：_桐の舎桂子に師事して万葉集に関心を抱く。

子規句歌革新1898＝34歳：_新聞{日本}に評論を投稿し、正岡子規と論争するが、

ピアノ国産化・・・1900＝36歳：*「歌よみに与ふる書」に感激して、子規に師事、
_子規庵の歌会に出席して作歌に励み、{日本}{心の花}に発表。

日比谷公園・・・1903＝39歳：*子規没後、根岸短歌会の機関誌「馬酔木」を創刊し、根岸派の存在を世に問い、
そのころの歌風は「万葉集」を尊重し、写實的詠風を求めた。

日露戦争終・・・1905＝41歳：

満鉄発足・・・1906＝42歳：_小説「野菊の墓」を発表、夏目漱石の激賞をうけ、
_{馬酔木}のあとの雑誌{アカネ}を三井甲之に託したが不仲となり、

アララギ創刊・・・1908＝44歳：自伝的小説「隣の嫁」などを執筆しながら、_蕨真が発刊した{アララギ}に協力。

伊藤博文暗殺1909＝45歳：*自宅に発行所を移し、島木赤彦、斎藤茂吉ら多くの若手を育成、

“生の叫び”を強調し、

明治天皇没・・・1912＝48歳：「ほろびの光」などの沈潜した作風を示したが、
大正政変・・・1913＝49歳：脳溢血のため、_没した。